

**調査期間** 2014年11月1日～調査中  
**所在地** 伊勢原市上粕屋  
**時代** 近世、中世、奈良・平安、古墳、縄文  
**調査原因** 一般国道246号（厚木秦野道路）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査  
**遺跡位置** 小田急小田原線伊勢原駅の北西約3kmの小谷戸崖裾に位置する。



### 主な調査成果

平成26年度は中世～近世の調査成果があります。近世後期以降は、現代の削平も大きく、旧地形も不明です。調査区の西端で僅かに確認された畝から、周辺は耕作地として利用されていたと考えられます。この頃には前代の段切り状遺構は埋没しているため、その平坦地を利用していたと考えられます。

中世後期～近世前期は、大きな段切り状遺構が特筆されます。急傾斜と平坦面を作り、2段以上にわたり造成されてきました。近接する調査でもこのような大きな落ち込みが確認されているため、谷戸全体の斜面裾が大規模に造成されていたと推測されます。段切り状遺構の造営開始は、層序から中世後期にまで遡る可能性もあります。段切り状遺構の斜面上では、建物などは発見されませんでした。自然地形を活かしながら谷戸全体を造成していた可能性があり、相当の権力が介在していたと推測されます。中世後期、周辺一帯には扇谷上杉氏の上杉定正の居館が糟屋にあったと伝えられています。居館の所在地は現在も判然としませんが、小谷戸を含む調査地周辺は、上杉氏の影響下にあった可能性もあり、段切り状遺構の性格も今後検証する必要があります。

中世前期は、掘立柱建物が1棟発見されましたが、簡素な建物であり、それに付随するような施設も見つかっていません。しかし、近接する発掘調査では多数の遺構が発見されています。本調査地でも近世層からですが、中世瓦が出土しており、周辺との関係性が今後、調査を行う地区でも注目されます。



中世1面全景①



中世1面全景②